

県内の遺跡・遺物12

西頸城郡青海町 てらじ 寺地遺跡

糸魚川市小滝川と青海町青海川を主な産地とするヒスイは、縄文時代から日本各地へ運ばれ、呪術的な祭器あるいは権威の表象として貴重に扱われました。古代、糸魚川・西頸城地方は沼川郷と呼ばれ、『万葉集』では、ヒスイは「沼名河の底なる玉」と歌われています。寺地遺跡では、ヒスイを加工する工房的な住居跡が完全な形で発見され、ヒスイの加工技術は縄文時代中期には高度な発展を遂げていることが明らかになりました。また、径60cm程の木柱を伴う、縄文時代晩期の配石遺構が極めて良好な状態で検出されており、聖域・祭場・斎場の意味を併せ持った施設と考察されています。なお、寺地遺跡は国内の重要遺跡として、昭和55年に文部省の史跡指定を受けています。



配石遺構（写真提供：青海町教育委員会）



復元された住居跡

埋文にいがた No.14

発行 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒951 新潟市一番堀通町5923番地46
TEL (025) 223 - 5642
FAX (025) 228 - 1762
印刷 有限会社 双葉印刷